



尚志 圧倒V

全国
高校サッカー
県大会

3年ぶり5-0 富岡に雪辱

第93回全国高校サッカー選手権県大会(県サッカー協会、県高体連、福島中央テレビ主催、読売新聞社など後援)の決勝が1日、郡山市の西部サッカー場で

われ、尚志が5-0で富岡に快勝し、3年ぶり6回目の優勝を果たした。尚志は東京・駒沢陸上競技場で12月30日に開幕する全国大会に出場する。

5点目となるシュートを決める尚志MF中村駿介選手(右)(1日、郡山市の西部サッカー場で)

14本シュート放つ

14本のシュートを放って積極的に攻めた尚志が、連覇を目指した富岡に昨年の

雪辱を果たした。

尚志は前半19分、フリーキックからの相手オウンゴールで先制。FW林純平は後半11分にドリブルで攻め

「先輩たちの分も勝つ」

山城廉 主将(尚志3年)



▽決勝
尚志 5(1-0) 富岡
【得点】(尚) OG、林2、小野、中村

込んでからのシュートで2点目を挙げた後、同14分にはコーナーキックを頭で合わせて追加点。同24分にはFW小野寛之が、終了5分前には途中出場のMF中村駿介が決め、圧倒的な攻撃力を見せた。富岡は後半、攻撃的な布陣に切り替えたが、好機を作れなかった。

試合終了の瞬間、両手を高く突き上げた。思い浮かべたのは、学校にある「全国制覇」の横断幕。やっとスタートラインに立てたこと、うれしさがこみ上げた。

8月末に右足の甲を疲労骨折し、全治2〜3か月と診断された。選手間の競争は激しく、「試合に出られない

くなるかも」と焦った。それでも黙々と筋力トレーニングを続け、「ピンチでも必ず声を出してくれる(林純平選手)と信頼される主将として、ムードメーカーの役割を果たした。

走れるまでに回復したのは10月中旬で、準決勝は後半の20分だけ出場した。決勝直前のメンバー発表で告げられたスタメン。緊張と不安が大きかったが、開始直後の相手の攻撃をクリアすると、すべて吹き飛んだ。体を張って0点に抑えた。

同校は3年前の全国大会で県勢初の4強入りを果たしたが、その後は県大会敗退が続いた。「絶対に全国大会に行き、先輩たちの分も勝つ」と誓ってきた。「早く練習して少しでも実力をつけたい」。目はすでに大舞台を見つめていた。
(市原佳菜子)